

土木構造物荷重指針連合小委員会 第13回 議事録(案)

○日 時：2005年5月20日(金)13:00~16:00

○場 所：鹿島建設 2F ゲストラウンジ

○出席者：古田委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、川谷委員、北原幹事、金委員、斎藤委員、澤田幹事、中村幹事、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認

2) 発題と討議

・今後の作業の進め方についての討議

・第 編一般論・付録 及び 第 編各種作用 原稿案についての討議

○配布資料： 13-1) 第12回 議事録(案)

13-2) 今後の作業の進め方について

13-3) 第 編 付録 A- .2 荷重の不確定性と設計用荷重

13-4) 風作用 原稿案

13-5) 道路橋の活荷重 交通荷重実態調査データ

13-6-1) 衝撃作用を受ける土木構造物の設計用衝撃荷重の設定方法の指針  
(案 Ver.2)

13-6-2) 資料 13-6-1 付録 (3) 落石シミュレーション

13-7) 土木学会包括設計コードの印刷に関する資料

○主な討議 (発言者、敬称略)

1. 前回議事録の確認

・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。

2. 今後の作業の進め方についての討議

包括設計コードの印刷 について

・ 構造工学委員会で承認された予算で必要部数が印刷可能か早急に確認する。

予算内で200~250部程度の印刷・製本が可能。事務局で原稿を確認と印刷準備を進める。

第 編 付録 について

・ 今後の作業工程としては、夏休み明けに各章の第一稿、秋に全体検討、年末・年明けに修正作業とする。(佐藤)

- ・ 付録 A- .2 (担当：鈴木幹事、資料 13-3) については、付録 A- .1 (担当：白木副委員長) と内容の分担・統合、章構成の調整を行う。また、付録 A- .1 ~ A- .3 の各原稿が揃った段階で統一性をとるための調整を行う。
- ・ 付録「A- .4 偶発作用の考え方」については、野津提案も含めて委員会で広く議論されてきた内容をまとめたものとした。短期の偶発作用 WG の設置も考える。(佐藤)
- ・ 付録 A- .7 については、“性能設計実現に向けての理想”と“現状とのすりあわせ”を分けて記述する。(古田、佐藤)
- ・ 付録としては難しいが、指針に反映されない少数意見をまとめるのも有用である。(小冊子のようなもの?)(本城)

### 第 編 各種作用 について

- ・ 地盤作用については、地盤のモデル化や構造物に関わる作用・反作用まで、作用全体としてまとめて記述できるとよい。(澤田)
- ・ 原子力の分野では、落石、斜面崩壊による構造物への作用を地盤作用として包括しようとしている。本指針の地盤作用、衝撃作用でもこうした議論を取り込んでもらえるとうい。(中村)
- ・ 固定(死)作用は、まずは初稿を作成し、単位体積重量のバラツキ等について議論する。(佐藤)
- ・ 雪作用等の執筆担当者が未定のものは、建築側への依頼も含め早急に今後の対応を考える。
- ・ 温度作用のデータとして、LNG タンクに関するものは提供できるか( 藤田委員へ依頼)

### 3 . 第 編一般論・付録 及び 第 編各種作用についての討議

#### 活荷重について

- ・ 金委員より資料 13-5 について説明がなされた。本資料は、公表されている交通荷重調査から活荷重の性能評価に有用と思われるデータをまとめているものである。
- ・ EuroCode の例にもあるように、特定路線の調査から総合的なデータを分析するという考え方も十分にあり得る。(金)
- ・ 過積載の実態などを議論できるデータが整理できるとよい。(本城 他)

#### その他の作用について

- ・ 資料 13-3、13-4、13-6 については担当者が不在のため、メールによる質問や次回以降の委員会にて再度討議を行う。
- ・ 資料 13-4 の風作用については、査読担当者を決め、ハコ書きや内容の校正を進める。
- ・ 資料 13-6 の衝撃作用については、荷重の決め方をもう少し記述した方がよい。資料

13-6-2 の付録の内容をむしろ充実させる。(澤田、本城)

今後の予定

- ・ 懸案となっている作用や付録 A- .1 ~ A- .3 の調整等を次回委員会までに進める。
- ・ 次回開催予定  
第 14 回本委員会 9月6日(火) 15:00 ~ 中央大学

以上